様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２２ 日現在

機関番号：３２６５３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１５９０６

研究課題名（和文）神経内科領域における漢方治療エビデンスの構築

研究課題名（英文）Evidence of the efficacy of Kampo medicine for neurological symptoms

研究代表者
河尻　澄宏（KAWAJIRI, SUMIHIRO）

東京女子医科大学・医学部・助教

研究者番号：３０４４５５２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：神経内科領域における漢方治療のエビデンス構築に向けて、当院独自の自覚症状評価システム（TOMRASS）を活用して研究を行った。特に漢方薬に反応が高い症状とされる頭痛、めまい、しびれに着目し、専門外来を設置して取り組んだ。漢方薬の有効性については、頭痛に対する呉茱萸湯 70.0%、五苓散 58.8%、苓桂朮甘湯 52.9%など、めまいに対する苓桂朮甘湯 48.4%、五苓散 63.6%、半夏白朮天麻湯 54.5%など、しびれに対する八味地黄丸 38.4%などであった。有効例の考察においては例えば、苓桂朮甘湯は足冷えを随伴する傾向があるなど、各方剤においてこれまでの知見にないことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
漢方薬の有効例、無効例の判断を各医師の感覚ではなく自覚症状評価システム（TOMEASS）で行ない、有効例、無効例を様々な随伴症状、身体所見などから評価することにより、漢方薬選択における客観的指標を立てることが可能になる。
頭痛、めまい、しびれを有する患者は多く、現代医学での治療効果は限定的であり、QOLは低い。そのような中で、漢方薬をより適切に活用できるようになり、健康レベルが上がることが期待できる。

研究成果の概要（英文）：I conducted research to make evidence of Kampo medicine for neurology with original system "TOMRASS" in our clinic. I paid attention to symptoms such as headache, dizziness, and numbness relatively responsive to Kampo medication. For headache, efficacy rate of gosyuyuto, goreisan, and ryokeijutsukanto was 70.0%, 58.8% and 52.9%, respectively. For dizziness, those of ryokeijutsukanto, goreisan and hangebyakujutsutenmato was 48.4%, 63.6% and 54.5%. For numbness, those of hachimijiogan was 38.4%. When I discussed about condition of patients effective to Kampo medication, for instance, ryokeijutsukanto was especially effective to patients with coldness in foot. I revealed new knowledge about Kampo medications.

研究分野：漢方医学

キーワード：漢方　頭痛　めまい　しびれ　神経内科

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

神経内科領域の症状であるしびれ、めまい、頭痛などを有する患者様の頻度は高いが、現代医薬の効果は限定的で、逆に副作用が多く満足度は低いことが多い。漢方診療はオーダーメード治療で、薬の多くは湯液であり色調・味があることから二重盲検試験は困難であり漢方薬のいわゆるエビデンス構築は容易ではない。特定の疾患・症状にはこの漢方薬という一対一対応ではなく、より患者様の体質に合った漢方薬を選択するのが本来の伝統的な漢方治療であり、実際そのほうが効を奏すことは多くの漢方医は実感している。しかし、経験的なものばかりでありいわゆる客観的エビデンスは乏しい。

２．研究の目的

患者様個人の単一の症状・疾患で決めるのではなく、どの状態・体質であれば、どの漢方薬が適切なのかを明らかにし客観的エビデンスを構築していくことが重要である。エビデンスがある程度構築されれば、適切な漢方治療の普及により患者様の満足度が上がり、健康増進につながることが期待できる。また超高齢化社会に伴う医療費増大傾向の中、漢方薬は安価であり、かつ現代医薬の減薬も可能なことから医療費削減にも貢献できる。

３．研究の方法

頭痛、めまい、しびれなどの神経症状を主訴に当施設を来院された患者様に当院採用の初診時自覚症状の問診票を記載してもらう（問診票は当院のホームページからダウンロードできる http://www.twmu.ac.jp/IOM/images/dl/kampo.pdf）。問診票には主訴の自由記載欄以外に症状が多数記載されており、自覚のあるものに○をつけてもらう。また特に困る症状についても別に記載してもらう。漢方医学的診察の四診（望診、聞診、問診、切診）を行い、漢方医学的所見をとる。虚証（弱々しい体格）か実証（頑丈な体格）か区別し、問診票を参考に患者様の状態に最適と思われる漢方薬を処方する。患者様に TOMRASS の説明を十分に行い同意書をいただく。その後、TOMRASS にデータ入力を行う。以後も通常診療を行うが、再診時には患者様ご自身による自覚症状の頻度と程度のスコアを入力してもらう。有効性については頻度、程度ともに１段階以上改善したものを有効例とし、有効例の他の自覚症状や漢方医学的所見を解析し、どのような患者様に有効であったかの全体像を検討した。

４．研究成果

①　頭痛に対して

126 例を対象にしたが主な処方を列挙する。

呉茱萸湯 20 例中 14 例で有効（有効率 70.0%）

五苓散 17 例中 10 例で有効（有効率 58.8%）

苓桂朮甘湯 17 例中 9 例で有効（有効率 52.9%）

有効例の検討では呉茱萸湯は首のこり、苓桂朮甘湯は足の冷えを有する患者様が多い傾向にあるなど新知見と思われた。五苓散にはこれまでの知見にない新たな傾向は明らかにできなかった。

② めまいに対して
99 例を対象にしたが主な処方を列挙する。
苓桂朮甘湯 33 例中 16 例で有効（有効率 48.4%）
五苓散 11 例中 7 例で有効（有効率 63.6%）
半夏白朮天麻湯 11 例中 6 例で有効（有効率 54.5%）
有効例の検討では苓桂朮甘湯、半夏白朮天麻湯ともに足の冷えを有する患者様が多い傾向にあることが示唆された。五苓散にはこれまでの知見にない新たな傾向は明らかにできなかった。

③ しびれに対して
39 例を対象にしたが主な処方を列挙する。
八味地黄丸 26 例中 10 例で有効（有効率 38.4%）
有効例の検討ではこれまでの知見にない新たな傾向は明らかにできなかった。

新たな知見を得て、今後の漢方診療に応用することはできる。しかし、目的を達成するためには今後さらなる大規模な症例での解析が必要である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆	４．巻 印刷中
２．論文標題 鼻の乾燥感に八味地黄丸，六味丸が有効であった3症例	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本東洋医学会誌	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆	４．巻 69
２．論文標題 胃食道逆流症による咽喉頭違和感に清熱補血湯が有効であった一例	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本東洋医学会誌	６．最初と最後の頁 295-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 河尻澄宏	４．巻 4924
２．論文標題 認知症における漢方治療のアプローチ	５．発行年 2018年
３．雑誌名 週刊日本医事新報	６．最初と最後の頁 44-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆	４．巻 印刷中
２．論文標題 胃食道逆流症による咽喉頭違和感に清熱補血湯が有効であった一例	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本東洋医学雑誌	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 河尻澄宏	4．巻 4854
2．論文標題 アルツハイマー病における加味帰脾湯の可能性	5．発行年 2017年
3．雑誌名 週刊日本医事新報	6．最初と最後の頁 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 河尻澄宏	4．巻 4858
2．論文標題 山梔子含有の漢方薬長期服用が引き起こしうる腸間膜静脈硬化症	5．発行年 2017年
3．雑誌名 週刊日本医事新報	6．最初と最後の頁 55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 河尻澄宏	4．巻 4862
2．論文標題 頭痛診療における漢方薬について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 週刊日本医事新報	6．最初と最後の頁 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 河尻澄宏	4．巻 4867
2．論文標題 脳神経外科領域における五苓散の応用について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 週刊日本医事新報	6．最初と最後の頁 63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆
2．発表標題 八味地黄丸、六味丸で鼻の乾燥感が改善した3症例
3．学会等名 第69回日本東洋医学会学術総会
4．発表年 2018年

1．発表者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆
2．発表標題 2，3ヵ月に一度の不定期な発熱に六味丸が有効であった一例
3．学会等名 第75回関東甲信越支部総会
4．発表年 2018年

1．発表者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆
2．発表標題 逆流性食道炎による口腔内ヒリヒリ感に清熱補血湯が有効であった72才女性例
3．学会等名 第68回日本東洋医学会学術総会
4．発表年 2017年

1．発表者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆
2．発表標題 眼瞼痙攣・顔面のしびれに八味地黄丸が有効であった64歳女性例
3．学会等名 第74回関東甲信越支部総会
4．発表年 2017年

１．発表者名 河尻澄宏、木村容子、伊藤隆
２．発表標題 八味地黄丸、六味丸で鼻の乾燥感が改善した3症例
３．学会等名 第69回日本東洋医学会学術総会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考